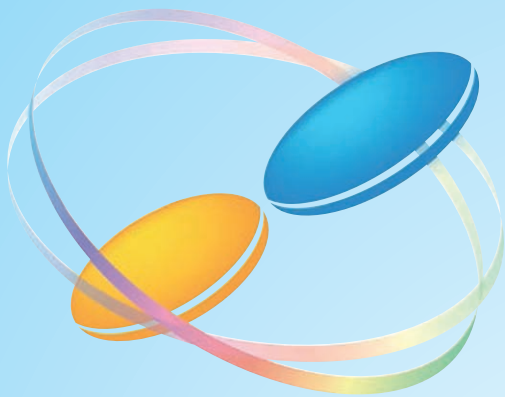




埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携 News



基本理念：患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療の提供を行い、かつ最も高度の医療水準を維持するよう努めます。

使 命：当センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供します。

基本方針：上記の理念に従って患者中心主義（patient-centered）を貫き、あらゆる面で“患者さんにとって便利”であることを主眼とし、患者さんひとりひとりにとって最も適切な医療を提供致します。

患者さんの権利：当センターは、全ての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。これらを尊重した医療を行うことをめざします。

- (1) ひとりひとりが大切にされる権利 (2) 安心して質の高い医療を受ける権利 (3) ご自身の希望を述べる権利
(4) 納得できるまで説明を聞く権利 (5) 医療内容をご自身で決める権利 (6) プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利：(1) ひとりの人間として尊重される権利

(2) 質の高いおもいやりのある安心安全な医療を受ける権利

(3) 年齢や理解度に応じた十分な説明と情報提供を受ける権利

*子どもさんとご家族が、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで説明を受ける権利

(4) ご自身で希望を述べる権利

*子どもさんとご家族が、ご自身の精神的、文化的、社会的、倫理的な問題について要望する権利

(5) 自己決定の権利

*子どもさんとご家族が、自らの意思に基づいて医療内容を選択あるいは拒否する権利

(6) プライバシーが守られる権利

第47回埼玉医科大学・連携施設懇談会を開催しました

令和6年11月13日、川越プリンスホテルにて第47回埼玉医科大学・連携施設懇談会を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和元年10月の懇談会を最後にWEB開催となっておりましたが、この度川越プリンスホテルでの懇談会を再開いたしました。

第1部講演会では、学術講演として当院副院長脳卒中センター長栗田浩樹先生より「脳卒中・心臓病等総合相談支援センター事業について」、特別講演では、厚生労働省大臣官房医薬産業振興・医療情報審議官内山博之先生より「医療と

DXの現状と今後」のご講演をいただきました。

第2部懇親会では、地域の医療機関の先生方はじめスタッフの皆様と立食にて懇親を深めることができました。コロナ禍でなかなか再開できずにいた顔の見える連携が、実施できたことをご報告いたします。

お忙しい中ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。今後は、従来通り年2回の開催を予定しています。開催日程につきましては別途ご案内いたします。



講演会の様子



懇親会の様子

第 97 回埼玉医科大学国際医療センター地域医療連携懇話会を開催しました

令和 7 年 3 月 10 日に第 97 回地域医療連携懇話会をハイブリッド形式で開催いたしました。

心臓病センターより『重症心不全における薬物治療～エンレストへの期待～』と『小児～成人までカバーする横断的重症心不全治療：包括的管理・評価、内科的治療、機械的補助、人工心臓から手術まで』という演題で、医師・移植コーディネーターより講演をいただきました。

会場・WEB あわせて 67 名のご参加をいただきました。お忙しい中ご参加いただいた皆様ありがとうございました。次回の開催につきましては、順次ご案内いたします。

【総合司会】

地域医療連携室室長

眞下 由美 先生

【開会の辞】

病院長

佐伯 俊昭 先生

【座長】

心臓病センター長

鈴木 孝明 先生

講演 1 19:05～19:40

『 重症心不全における薬物治療 ～エンレストへの期待～ 』

埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科 教授 中埜 信太郎 先生

講演 2 19:40～20:10

小児～成人までカバーする縦断的かつ横断的重症心不全診療：

包括的管理・評価、内科的治療、機械的補助、人工心臓から移植手術まで

『 Destination Therapy により変わる心不全治療 』 心臓内科 講師 野本 美智留 先生

『 補助人工心臓治療と心臓移植の現状および適応 』 心臓血管外科 准教授 木下 修 先生

『 補助人工心臓を橋渡しとした、小児の重症心不全治療 』

小児心臓外科 教授 帆足 孝也 先生

『 重症心不全患者への移植コーディネーターの関わり 』

重症心不全・心臓移植センター 土屋 美代子 先生

【閉会の辞】

心臓病センター長 鈴木 孝明 先生

【プログラム】



左から 眞下連携室長、中埜医師、野本医師、土屋コーディネーター、木下医師、帆足医師、鈴木医師、佐伯病院長

アルツハイマー病抗体医薬（レカネマブ、ドナネマブ）治療の 専門外来開設のお知らせ（第2報）

脳卒中内科 加藤 裕司

令和5年12月に承認されたアルツハイマー病 新規治療薬であるレカネマブ（レケンビ®）に続き、令和6年11月にはドナネマブ（ケサンラ®）がわが国でも承認されました。

これらの薬剤はアルツハイマー病で脳内に蓄積する病因タンパク質（アミロイドβタンパク質）を除去し、認知機能低下の進行を抑制する点滴治療薬です。アルツハイマー病による軽度認知障害(MCI)あるいは軽度認知症の患者さんに限り使用できる薬剤です。

当院脳卒中内科では、これらの薬剤の適応判断と投与できる体制を整え、これまで40例以上の早期アルツハイマー病の患者様にレカネマブ、ドナネマブの投与を行ってきました。

以下、当院で認知症抗体医薬（レカネマブ、ドナネマブ）治療を希望される患者さんの受診予約からの流れを説明させていただきます。なお、初診を含む以下の認知症抗体医薬治療に係る来院は、原則ご家族など介護者の同伴が必須となりますのでご注意ください。

1. 対象となりうる患者さん

①認知症（あるいは認知機能低下）の程度が軽いこと

⇒ MMSE 20～22点以上の患者さんが対象となります。

※適応となる MMSE スコア：レカネマブ 22～30点、ドナネマブ 20～28点

②脳内に出血性病変が無い、または少ないこと

⇒ 頭部 MRI 検査で判定します。

③アミロイドβが脳内に確実に蓄積していること

⇒ 当院では原則アミロイド PET を用いて判定します。

①～③の全ての基準を満たした方は認知症抗体医薬を使える可能性があります。上記の規定に従うと、実際に投与対象となる方は限定されるのが実情です。現在、近隣医療機関の脳神経内科・脳神経外科・精神科で適応判断のうえ、ご紹介いただく形をとっていますが、適応があるようであれば（①だけのご確認を頂けると幸いです）、地域医療連携室を介して当院に直接紹介いただくことも可能です。いずれの場合も専門的な診察や検査の枠に制限があり、適応判断まで3週間前後かかることが想定されます。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

2. 実際の治療

レカネマブは2週間に1回1時間、ドナネマブは4週間に1回30分間の点滴で投与されます。初回は1泊2日の入院での投与、2回目以降は外来での投与となります。投与はE棟外来処置室のリクライニングベットで行われます。

両剤とも投与期間は18ヶ月間ですが、ドナネマブは投与1年後のアミロイド PET 検査でアミロイドβタンパク質の除去が確認できれば投与終了となります。定期的に副作用の確認のため診察、頭部 MRI 検査を受ける必要があります。副作用としては、脳浮腫・脳出血、アレルギー反応などです。重篤な副作用が出現する場合は、投薬を中止します。

3. 特記事項

上記認知症抗体医薬（レカネマブ、ドナネマブ）は、アルツハイマー病の進行を抑制させる可能性があります。改善させる薬ではありません。また、薬価が比較的高額ですが、高額療養費制度の利用が可能です。

4. 受診の方法

認知症抗体医薬の投与を検討される患者さんがいましたら、予約取得時にその旨をお伝えいただき、脳卒中内科 月曜午前、火曜午前の加藤裕司の外来枠を予約ください。

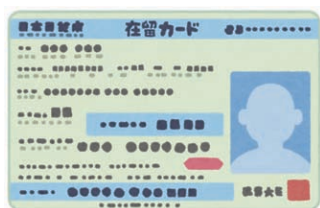


点滴の行われるE棟外来処置室のリクライニングベット。テレビモニターがあり、点滴中快適にお過ごしいただけるよう工夫しています。

外国人患者さんの受診をサポート

国際診療支援部

当院では、外国人の患者さんが日本人の患者さんと同様に、グローバル・スタンダードの専門医療を安心・安全に享受できるよう、コミュニケーションツールや院内環境を整備し、文化や宗教の違いを考慮した体制作りに取り組んでいます。初診時には厚生労働省の研修を修了した外国人患者受入れ医療コーディネーターが問診、検査、診察、会計へのサポートを行っています。医療機関の皆様より、外国人患者さんをご紹介いただき地域医療連携室にて予約を取っていただく際に、病名や連絡先以外に国籍や、母国語、日本語が話せるのか、同行者の有無などを伺っております。事前に情報をいただければ、当日の対応がスムーズです。引き続きご協力をお願いいたします。



初診受付時に「在留カード」又は「パスポート」の提示をお願いしています。

新任診療部長・教授のご紹介

新任診療部長のご挨拶



のだ しんぺい
野田 真永

診療科：放射線腫瘍科 教授

専門分野：放射線腫瘍学、定位照射、強度変調放射線治療、小線源治療、MR リニアック治療

2024年12月より放射線腫瘍科の診療部長を拝命いたしました。当科では全身の悪性腫瘍を対象に、症状緩和目的照射、無症状の少数転移には局所制御をはかった定位照射など、近年の技術革新により1日～1週間の通院治療が保険診療で実施可能となっております。連携施設の皆さまからは、「想像以上に対応できる」とのご評価をいただいております。今年度からは、国内4台目となるMR リニアックも再稼働し、より精密な治療が行えるようになりました。緩和・根治を問わず、ぜひ当院の該当診療科までご紹介いただけますと幸いです。

新任診療部長のご挨拶



まえだ ともや
前田 智也

診療科：造血器腫瘍科 准教授

専門分野：骨髄異形成症候群、白血病の診断と治療、造血幹細胞移植

令和7年4月1日付で埼玉医科大学国際医療センター造血器腫瘍科 診療部長を拝命いたしました。開院当初より白血病や骨髄異形成症候群をはじめとする造血器腫瘍および造血不全症の診療に継続して取り組んでまいりました。現在は、成人白血病治療共同研究機構において検体保存・付随研究推進委員会の委員長を、また厚労科研「特発性造血障害」の研究班において中央診断委員を務めております。今後も、地域の患者さんに対して的確な診断と最善の治療を提供できるよう、より一層努めてまいります。血液疾患でお困りの際は、どうぞお気軽にご紹介ください。

新任診療部長のご挨拶



ひしだ ともゆき
菱田 智之

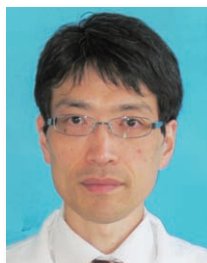
診療科：呼吸器外科 教授

専門分野：肺癌、縦隔腫瘍など胸部悪性腫瘍の外科治療

2025年4月に当院に着任し呼吸器外科教授・診療部長を拝命致しました。これまで、主に国立がん研究センター東病院、慶應義塾大学病院で経験を積んでまいりました。当科では開胸、胸腔鏡下、ロボット支援下いずれの手術も可能で、早期癌に対する縮小手術から進行癌に対する拡大手術や集学的治療までオールラウンドに対応致します。また、気胸など非腫瘍に対しても積極的に対応しております。埼玉県西部における呼吸器外科診療の“最後の砦”として尽力してまいりますので、お気軽にご相談いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



新任診療部長のご挨拶



はやし たけし
林 健

診療科：脳卒中内科 教授
専門分野：脳卒中、臨床神経学

2025年4月1日付で診療部長を引き継ぎました。当科は脳梗塞をはじめとする急性期神経疾患の診療に特に強みを有していますが、ほかにも、認知症や頭痛などにも広く対応しております。

脳卒中患者にとって、急性期病院での日々は長い闘病生活のごく一時期のことにはすぎません。回復期および維持期医療機関の先生方とできるだけ協力して地域の人々を守っていきたいと思います。また、医師の役割もごく一部にすぎません。多くの職種のみなさまと一緒に、地域の支えになればと思います。どうぞよろしくお願い致します。

新任診療部長のご挨拶



せき まさふみ
関 雅文

診療科：感染症科・感染制御科 教授
専門分野：ウイルス感染症、呼吸器感染症、日和見・耐性菌感染症

2025年4月1日付で感染症科・感染制御科の診療部長を拝命しました。2022年4月より当科教授として赴任し、医学教育や研究とともに、COVID-19やインフルエンザなど急性呼吸器感染症を中心に診療にあたっております。現在もCOVID-19は一定の重症化が見られ、基礎疾患のある方への投薬や入院管理が必要です。他にも結核や肺炎、MRSAに代表される耐性菌への対応など、救急部から受診される方以外にも、かかりつけ科の先生方を通じてご相談ください。地域の皆様と連携し、最新の感染症診療、感染対策の普及に努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

新任教授のご挨拶



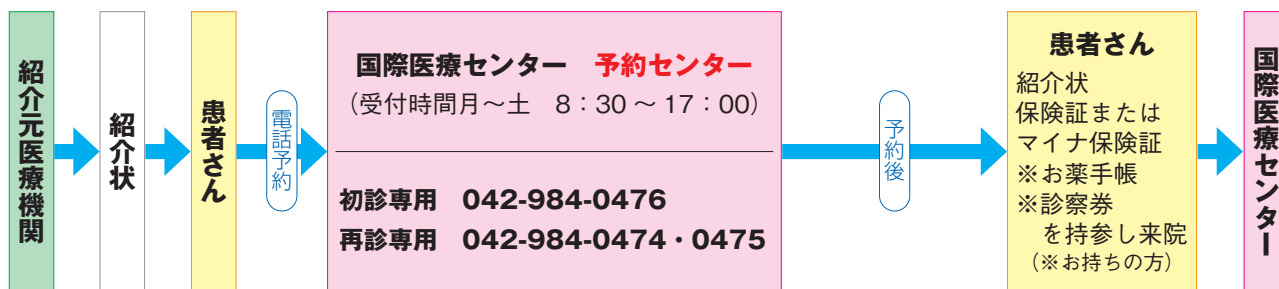
わきもと なおき
脇本 直樹

診療科：造血器腫瘍科 教授
専門分野：悪性リンパ腫、発作性夜間ヘモグロビン尿症

2025年4月1日に造血器腫瘍科教授を拝命致しました。私は2000年10月に埼玉医科大学付属病院血液内科に採用されました。5年間、日常臨床に専念しておりましたが、2005年10月から2007年9月まで米国に留学し、研究に没頭しました。帰国後は開院間もない国際医療センター造血器腫瘍科に配属されましたが、その後、埼玉医科大学病院、埼玉医科大学短期大学にそれぞれ転任し、再び国際医療センターに戻ってきました。専門は悪性リンパ腫ですので、リンパ腫の患者さんのご紹介を宜しくお願い致します。

当院は予約制です 下記の方法でご予約ください

① 患者さんからの電話予約

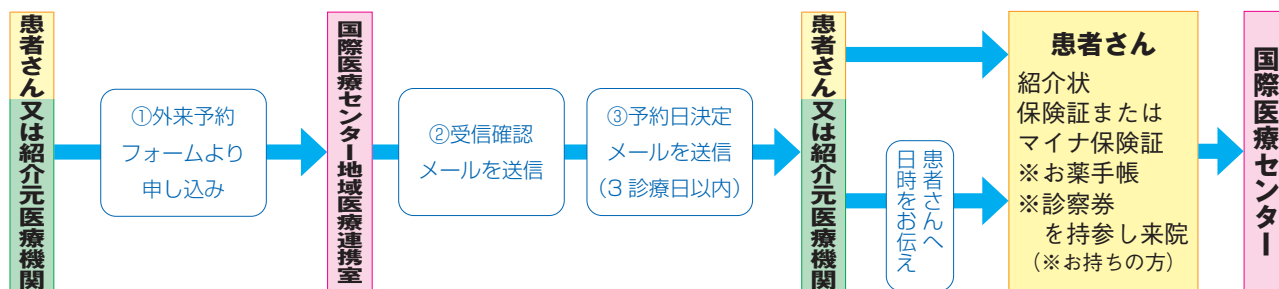


② 医療機関からの電話予約



③ インターネットからの予約 (初診専用)

紹介状は患者さんへお渡しください。



Organization Accredited
by Joint Commission International



インターネット
予約入力フォームは
こちらから



埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携 News (第30号)

編集・発行：埼玉医科大学国際医療センター
地域医療連携室

編集責任者：眞下 由美
発行責任者：佐伯 俊昭

住 所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

TEL：042-984-4433

FAX：042-984-4740

発行日：2025年6月1日

URL：https://www.international.saitama-med.ac.jp